

静岡

ファルマバレーセンター 「自立のための3歩の住まい」 モデルルームを開設

静岡県は、県東部地域を中心に、産学官金が連携し、医療健康関連産業の振興と集積を目指す「ファルマバレープロジェクト」を推進しています。その中核的な支援機関として設置されたファルマバレーセンター（駿東郡長泉町）では、超高齢社会の課題に対応すべく「健康長寿・自立支援プロジェクト」を展開しています。これは、高齢者が個人として尊重され、自分らしく暮らしていける社会の実現を目指すプロジェクトで、可能な限り自立して生活出来る理想の住環境を追求しています。その取り組みの一つとして、2021年3月に、同センター内にモデルルーム「自立のための3歩の住まい」を開設しました。

「自立のための3歩の住まい」のコンセプトは、「人生100年時代における高齢者のための住まいの在り方を考える」ものです。このモデルルームには、20年にわたりがん患者とその家族に寄り添ってきた静岡がんセンターの経験が随所に盛り込まれています。病室とホテルの部屋をレイアウトイメージの起点とし、住まいのあり方を求めたことから、間取りや機能は従来の住宅の在り方と大きく異なっています。例えば、このモデルルームでは、通常は部屋の隅に置くことが多いベッドを部屋の中心に据え、トイレや洗面台、シャワーなど、最低限必要な場所まで、ほんの数メートルで行くことが出来るようになっていきます。

20年後の理想の住まいをいかに読み解くか。そのキーワードは、①3歩から考える、②医療介護部屋、③ロボット化・AI化、④家族・社会との絆、の4つです。

①3歩から考える:広さは約28㎡。最も長く過ごすベッドを起点に、トイレや浴室など、生活の基本となる場所に「3歩」で行ける配置とします。

②医療介護部屋:日常生活の中で、手が触れるところを安心して使えるよう、床や壁などは、

抗菌・抗ウイルス・消臭・抗アレルギーの機能を持つ新しい素材を利用。天井には、消臭効果のあるナノイオン発生機を設置。

③ロボット化・AI化:高齢者の歩行をサポートするロボット、立ち上がりを支援する電動ベッドなど。最新のテクノロジーを住まいの中でどう活用するか、も重要なテーマです。

④家族・社会との絆:背景が透けるディスプレイは窓とテレビ画面を兼ねたもの。インターネットと接続すれば、オンラインで家族や友人とのコミュニケーションや医療機関による遠隔診療も可能です。

同センターでは、住む人の自立性を尊重し、自分らしい時間を過ごすことが出来る居室で、ご家族や介助する人たちと共に安心して過ごしなが、心身の変化に対応しフレキシブルに変更できる居室を、「ファルマモデル」として提案しています。このモデルルームは、20年後の高齢者の住まいを一緒に考えるための、いわば共同研究室となっていて、開設以来、既に多くのお客様が見学にみえています。同センターでは、今後もより多くの方々にご覧いただき、双方向で意見交換を行いながら、新たなアイデアを生み出す場としていくことを目指しています。



手前は高齢者の歩行をサポートするロボット



ベッドを起点にトイレや浴室へ「3歩」で行ける配置となっている

※見学のお問い合わせは、お電話にてお願いします。

T E L : 055-980-6333

所在地: 静岡県駿東郡長泉町下長窪1002-1
静岡県医療健康産業研究開発センター1階